

東京都農業会議情報

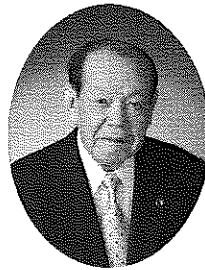
第296号

平成19年1月

編集及び発行
東京都農業会議
渋谷区代々木2-10-12
TEL (03) 3370-7145

新年にあたって

東京都農業会議会長 波多野 重雄



新年明けましておめでとう
ございます。

新たな年を迎え、ひとこと
ご挨拶を申し上げます。

都市農地を巡る情勢は近年
大きく変化し、食や防災への
関心が高まり、安全・安心や
緑と潤いをもたらす農地を
「残したい」とする意見が消
費者をはじめ地域住民の声と
なつて、国政を大きく動かし
つつあります。

このようななかで、昨年の
春には国会の場で相次いで都
市農業の振興に関する質問が
行われ、農水省都市農業・地
域交流室は国交省と協力して

「都市農業振興勉強会」を立
ち上げ、これからの都市農地
のありかたについて検討を進
めています。

一方、三大都市圏の農業会
議で組織する「農業委員会都
市農政対策協議会（波多野重

第48回東京都農業委員・農業者大会を開きます

東京都農業会議と農業委
員会地区協議会・連合会は、
「第48回東京都農業委
員・農業者大会」を平成19
年3月1日（木）午後1時
より昭島市民会館大ホール
で開きます。

大会では、国や東京都に
対する「東京農業の確立に
関する要望」および来年度
に向けての「農業委員会活
動の積極的推進」について

雄会長）は、12

月21日に「新た

な都市農業施策

に関する提案」

を決定し、新た

な農地保全制度

の構築と併せて

既存の生産緑地

法・納税猶予制度の堅持と農

業振興の推進を求めました。

昭和43年の新都市計画法

制定以来「都市に農地はいら

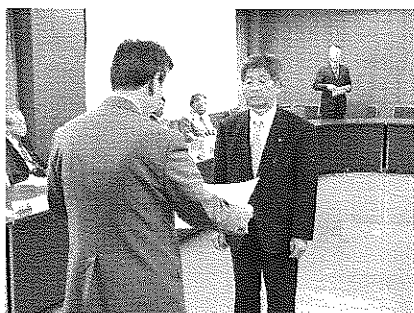
ない」と言われ続けてまいり

農林大臣表彰に八丈町農業委員会前会長 沖山宗春氏

農委会活動の功績者に贈
られる農林水産大臣表彰者
に今年度は沖山宗春氏（前常

任会議員・前八丈町農委会
長）が選ばれ、このほど都農
林水産部秋元参事より表彰
状が伝達されました。（写真）

氏は、昭和57年10月に農
業委員に就任以来、島しょ農
業振興に尽力され、晴れの受
賞となりました。



農林水産大臣表彰の伝達を受ける
沖山宗春氏(右)

あぜみち

東京農業の新しい船出
である。「東京農業」を「都
市農業」と言いかえても
よい▼「都市」という言
葉の持つあいまいさから
どの地域を指しているの
か意見が様々だ▼平成
11年の食料・農業・農村
基本法制定時に農水省は
「都市とは開発されたと
ころをいい、ビルの隣の
畑は都市周辺に該当す
る」として「市街化区域
内農地も施策対象に含ま
れる」と説明した▼一方
で統計上の「都市的地域」
は、日本の農地面積の四
分の一が含まれる広大な
地域となっている▼東京
の農地は西の奥多摩町・
檜原村も南の青ヶ島村・
小笠原村も、どの地域で
も交流を含めて都市住民
と直接つながっている▼
都民対して農産物の提供
を通じ、安全・安心と潤
いを与え続ける農業・農
地の持つ機能は、都心部
でも中山間地でも離島で
も、全く変わることはない
重要な役割を担ってい
る▼今年が皆様にとって
よい年でありませうよう祈
念いたします。

「農地政策の再構築に向けた検討」など6議案を決定

全国農業委員会会長代表者集会

全国農業会議所は、11月29日に、九段会館において、全国農業委員会会長代表者集会を開き、都内からは農委会長など約30人が出席しました。大会では、まず「農業構造改革の推進に向けた農委会活動・取り組み」について事例報告がされ、次いで要望・申し合わせ決議が行われました。要望決議では「農林関係予算確保」「農地政策の再構築に向けた検討」をはじめ、「日豪FTA特別決議」など4項目が、申し合わせ決議では「農地と担い手を守り活かす運動」および「情報活動の推進」



松本洋平衆議院議員(左上)に都市農地の保全や大会要望について要請する

農地管理の徹底など全都内で取り組み

農地管理・流動化推進月間状況

都内農業委員会では、8月〜10月のうちの1ヶ月間を全都的に農地管理・流動化推進月間と設定し、農地の管理と流動化に取り組んでいます。このたび、その状況について中間報告をします。

農地管理では、多くの区市で、生産緑地や相続税納税猶予適用農地を中心に地区を班編制し、農業委員と事務局がパトロールにあたっています。農地の状況については、お

おむね適正に管理されているものの、一部、管理が不十分な農地については、口頭または文書などによる指導がされています。

瑞穂町、あきる野市では、不在地主の農地などの所有者に対し適正な管理を促すとともに、シルバー財団を紹介するなど周囲に迷惑をかけないように喚起しています。

農業委員会関係予算は前年度と同額 都市農業関連で新規予算を確保

平成19年度農林予算が決定

12月24日に、平成19年度農林予算が決定しました。昨年、税源移譲で大きな変革が行われた農業委員会交付金については、その決着を受けて平成18年度と同額となっています。

育成に関する事業が拡充されており、認定農業者を中心とする強い農業づくりの推進が求められています。

また、新規予算としては、品目横断経営安定対策関係が確保されましたが、都内においてはは施策の対象となる規模や品目をあわせ持つ農業経営

農水省農村振興局の「都市農業・地域交流室」では、「多様な主体の参加による都市・農山漁村の共生・対流の新たな展開」として、約8億円の

常任会議員会議だより

第8回常任会議員会議 平成18年12月18日に開催し状況は次のとおり。

議事

①農地法4条・5条の規定に基づく知事諮問は、4条2件810㎡、5条8件2612㎡について審議し、許可相当と答申する旨決定した。

②平成18年度東京都農

業会議予算の補正について協議し、原案のとおり決定した。

協議

①第48回東京都農業委員・農業者大会開催要領を決定し、3月1日に昭島市民会館大ホールで開催することとして、参加・協力をお願いをした。

当面の農政問題は、②都内

の農業委員会が取り組む農地制度関係事務・農地保全管理の状況について説明し、今後活動の重点として、相互に連携をはかりながら積極的に進めることとしました。③自民党税制調査会と政府税制調査会による農業分野の改正要望及び平成19年度農関係予算の概要について説明した。

さらに、農業委員会関係予算では、担い手サポート・新規就農支援・認定農業者確保

新規予算を確保しました。

家族経営協定の推進で合理的な農業経営をめざそう！

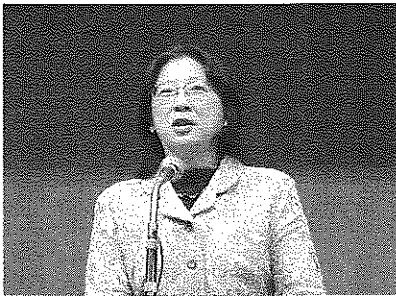
農業委員会活動フォーラム開く

東京都農業会議は、11月21日に「家族経営協定の推進で合理的な農業経営をめざそう」と題し、立川市のアミューたちかわにて「農委会活動フォーラム」を開きました。フォーラムでは、十文字学園女子大学助教授の宮城道子先生の「現代の農業者についての経営責任」と題した基調講演と宮城氏をコーディネーターに5人のパネリストとアドバイザー1人によるパネルディスカッションが行われました。

基調講演 宮城道子氏

十文字学園女子大学人間生活学部人間福祉学科助教授

「近年、農業者は経営のなかで様々な地域貢献をしてい



「合理的な経営を推進することが大事」を発信していることを基調講演で宮城道子氏は話した



パネリストそれぞれの立場から「家族経営協定」の大切さなどが語られた

経営。農業委員会の進めにより家族経営協定締結。

「取り決めに文書化する」とで意識が高まる」

パネリスト 臼井孝治氏

昭和四十年就農。酪農経営。経営の合理化のため家族経営を協定締結。

「お嫁さんなどのためにも家族協定による給料や休日の取り決めが必要だと思う」

パネリスト 澤井ちか江氏

米・野菜・養豚経営。平成12年に家族経営協定を締結。

「できることから協定を結び、話し合う場ができた」

パネリスト 岩佐宏明氏

農業者年金基金の企画調整室に所属。主に農業者年金の加入推進業務に携わる。

「家族協定を結ぶことで農業者年金に大きなメリットがある」

パネルディスカッションでは、コーディネータの宮城道子氏が「農業が地域に深い産業だけに、多くの人によりよく理解されるよう家族の中で話し合い、共同経営者という意識を持つことが大事」という提案をし、パネリストがそれぞれの立場から意見などを述べました。

第22回トップ農業経営者セミナー

「農業と食卓を結ぶ交流集会」開く

東京都農業経営者クラブ

東京都農業経営者クラブ（伊藤仁太郎会長）は、このほど、立川市の女性総合センターのアイムホールで第22回トップ農業経営者セミナー「農業と食卓を結ぶ交流集会」を開きました。

生産者と消費者が一緒になって東京農業について語り合うことを目的にした催しで、クラブ会員である都内の農業者と、一般の消費者など約100人が参加しました。

公開座談会が行われ、司会兼パネラーにNHKアナウンサーの桜井洋子さん、パネラーには民俗研究家の結城登美雄さん、立川市で野菜を生産する粕谷秀夫さん、消費者代

表として国分寺市の農業委員になつている川原くに子さんの各氏を迎えました。4人は生産者と消費者がいかに理解しあい、手を結ぶかについて、なごやかに語り合いました。

粕谷さんは多品目の野菜を生産して全量を自宅の直売所で販売しており、消費者との交流活動も実践しています。また、川原さんは国分寺市で一般市民が気軽に畑に入れるような農作業体験や農ウオークなどの活動に積極的にかわつてきました。

結城さんは、日本各地で直売所が農村を変えている様子を紹介しながら、東京では早くから消費者と接近した農業が営まれており、その優れた点にあらためて気づかされたと話しました。

また、座談会の後には都クラブが全国農業経営者協会や日本農業法人協会との共催で今年10月に実施した中国農業事情調査の報告をしました。



パネラーにより消費者の理解につなげるため、生産者と消費者の交流が深まった。公開座談会では4人が話した

東久留米市と足立区で認定交付式

都内の認定農業者が780人に

東久留米市(初)と足立区(二度目)で、このたび、認定農業者の認定交付式が開かれ、都内の認定農業者は780人となりました。

東久留米市では、一人ひとりに市長から認定書と「東久留米市認定農業者の証」のプレートが手渡されました。

足立区では、家族経営協定の締結式もあわせて行われました。

認定農業者制度については、多くの農業委員会で制度の必

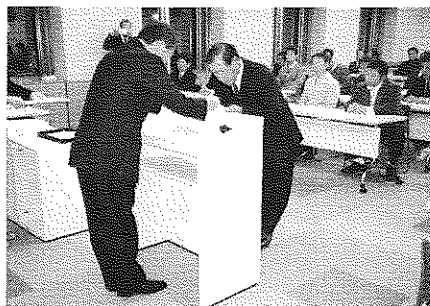
7市町村で農業委員改選

平成18年度内に7市町村で農業委員の改選が行われました。改選により選出された会長は左記のとおりです。

(順不同・敬称略)

- 日の出町 上野正男会長(再任) ▼奥多摩町 濱野芳男会長(再任) ▼町田市 吉川庄衛会長(新任) ▼日野市 岩澤泰宏会長(再任) ▼調布市 篠崎博会長(新任) ▼新島村 大沼光吉会長(再任) ▼八丈町 土屋博会長(新任)

※12月31日現在



野崎重弥市長(左)より認定書の交付を受ける松本清農委会長(右)

要性を位置づけ、説明会などが開かれています。

葉付きサラダ大根をPR!

新たな地域ブランドに期待

清瀬市では、青首で短くかつ柔らかい特質を持つ大根を「葉付きサラダ大根」としてPRしています。

これは、最近の消費者ニーズを考慮した生産者が、数年前から試作し今春販売したところ、好評であったところから、清瀬野菜の地域ブランドとして期待され、清瀬市農委会(松村新一会長)においても、農業振興の一環として、PRに協力しています。

地元野菜をつかって料理教室

「おいしい!」と大好評 立川市

立川市でこのほど、市民向けに地元野菜を使って作る料理講習会が開かれました。

講師は市内の農家女性がつとめ、サトイモと厚揚げの煮物、ダイコン葉とジャコの炒め物、けんちん汁などの調理が実演されました。

立川市では、昨年からは農業経営者クラブと消費者団体連絡会、市が「農消連携会議」を持ち、意見交換会や畑の見学会、漬け物講習会などの交



「葉付きサラダ大根」をPRする松村新一会長と野崎重市長(右)

本年10月には、流通市場・販売者などを交えた目標え会を開きました。(写真)

「地産地消

トークイン仙台」開く

「地産地消トークイン仙台」が、全国農業会議所の主催により、12月13日に、宮城県仙台市「仙台市戦災復興記念館」記念ホールにて開かれました。

はじめに、江別市農委会長職務代理の西脇幸夫さんと山形県鶴岡市の藤島ふれあい食センター所長の秋庭正典さんが日頃の取り組みについて実践報告をし、次に、日本大学大学院商学研究科の梅沢昌太郎教授をコーディネーターに「地場農産物の学校給食への活用を進めよう!」と題するディスカッションが開かれ、活発な議論がされました。



料理教室の講師は農家女性がつとめた

生産者と市民をつなぐ企画をお願いします」といった感想などが聞かれ好評でした。

2/3月の日程

- 2・5(月) 組織・活動検討会
- 2・6(火) 認定農業者の集い
- 2・7(水) 農委会活動研究会
- 2・13(火) 組織・活動検討会
- 2・16(金) 常任会議
- 3・1(木) 農業委員・農業者大会 (昭島市)
- 3・8(木) 主任職員協議会
- 3・16(金) 通常総会・常任会議